



映画監督

河瀬直美

Naomi Kawase Retrospective

2019年

12月24日(水) — 12月27日(金)

2020年

1月4日(土) — 1月19日(日)

2019年12月-2020年1月の休館日▶▶▶

月曜日、2019年12月28日(土)-2020年1月3日(金)

主催: 国立映画アーカイブ

協力: 組画

国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

国立映画アーカイブ [2階]

長瀬記念ホール OZU

定員=308名(各回入替制・全席自由席)

前売券

12月10日(水)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各150席分)を販売します。

[Pコード: 550-693]

前売料金: 一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円

- ・別途発券手数料がかかります。
- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・学生、シニア(65歳以上)の方は入場時に証明できるものをご提示下さい。
- ・チケット購入方法や手数料については、4頁をご覧ください。

当日券(発券=2階受付)

料金: 一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円 / 障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

◆当日券で入場される方には、開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間については4頁のスケジュール欄をご覧ください。

- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・当日券の発券は、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・当日券の発券は各回1名につき1枚のみです。

入場方法

- ①前売券をお持ちの方は、開場時(開映30分前)に、前売券に記載された整理番号順にご入場いただけます。
 - ②その後は、当日券の整理券をお持ちの方が、整理番号順にご入場いただけます。前売券をお持ちの方は、随時ご入場いただけます。
- 前売券・当日券は当日・当該回のみ有効です。

長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

映画監督

河瀬直美

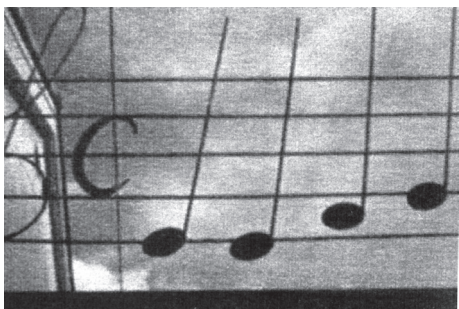
Naomi Kawase Retrospective

1997年『萌の朱雀』で史上最年少のカンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督賞)を受賞、徹底した自我の探究と日本の風土、自然、文化をとらえた作品によって国際的に高い評価を受ける河瀬直美。東京2020オリンピック競技大会公式映画監督も務めることが決定しています。

国立映画アーカイブでは、国内初となる大規模な特集上映を開催。初めて8mmカメラを手にして撮り上げた習作から、肉親との関係を記録し、新たな個人映画作家の登場を印象づけた『につつまれて』『かたつもり』、長篇第1作にして世界にその存在を知らしめた『萌の朱雀』、カンヌ国際映画祭グランプリを獲得した『殯の森』、樹木希林の最後の主演作にして、キネマ旬報ベスト・テン読者選出日本映画ベスト・テン第3位に選ばれるなど大きな反響を呼んだ『あん』、そして目下の最新作『Vision』まで、映画作家・河瀬直美の人生そのものというべき表現の軌跡をたどります。今回上映する作品の多くは、現存する原版から、最良のフィルムあるいはデジタルの上映素材を作製しました。会期中には、河瀬監督を迎えてトークイベントもおこなう予定です。

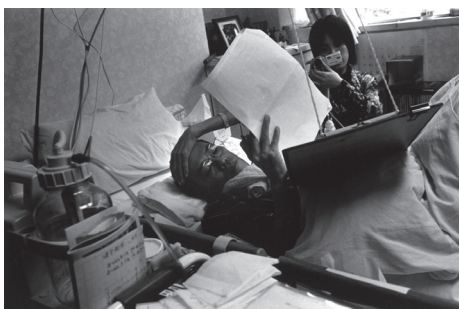
皆さまのご来場をお待ちしています。

- ◎=監督 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演 ◎=声の出演
- スタッフ、キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- ★印の付いた上映回では、トークイベントを予定しています。



現しよ

©kumie inc.



追憶のダンス

©kumie inc.

1 1/4(土)12:30pm 1/15(水)7:00pm

河瀬直美初期短篇集(計96分)

18歳で大阪写真専門学校(現・ビジュアルアーツ専門学校)に入学し、初めてフィルムカメラを手にした河瀬は、本人いわく「乾いたスポンジが水を吸収するように」映像表現の面白さに取りつかれていった。自分のまなざしを通して切り取られた人物や風景がフィルムに定着されることへの喜びに満ちた最初の映像作品、自身の主演によるフィクション作品、以後の河瀬の活動を語るうえで欠くことのできない存在となる養母の「おばあちゃん」にカメラを向けた作品、等身大の女性の生きざまを描いた卒業制作作品など、みずみずしい感覚にあふれた初期短篇をラインナップ。8mm、16mmで撮られた素材を今回の上映用にDCP・Blu-ray化した。

私が強く興味をもったものを大きくFixできりとする(5分・DCP・無声・カラー)

1988◎河瀬直美

私が生き生きと関わっていこうとする事物の具体化(5分・DCP・無声・カラー)

1988◎河瀬直美

my J-W-F(7分・DCP・無声・カラー)

1988◎河瀬直美

パパのソフトクリーム(4分・DCP・カラー)

1988◎河瀬直美

小さな大きな(13分・DCP・カラー)

1989◎河瀬直美

たったひとりの家族(13分・Blu-ray・カラー)

1989◎河瀬直美

今、(5分・Blu-ray・カラー)

1989◎河瀬直美

女神たちのバン(24分・DCP・カラー)

1990◎河瀬直美

幸福モドキ(20分・DCP・カラー)

1991◎河瀬直美

2 12/24(水)3:00pm★ 1/4(土)3:30pm

につつまれて(40分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

空や水のイメージ、留守番電話などの音声を自在に組み合わせながら、幼い頃に生き別れた父親と邂逅するまでの心の道程が綴られる。鋭い感性に裏打ちされた「私」映画として注目を集め、1995年山形国際ドキュメンタリー映画祭で国際批評家連盟賞を受賞。観終る頃には、観客は河瀬直美という映画作家の内的宇宙につつまれている。8mm原版からDCPを作製した。

1992(組画)◎河瀬直美

かたつもり(40分・16mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

養母の「おばあちゃん」を8mmカメラでとらえた作品。一見仲睦まじい2人だが、カメラの視線と言葉の端々に微妙な距離が宿り、それを埋めるかのよう極端な接写が多用される。実際、当時の河瀬は多忙で家を留守にしていることが多く、カメラを持つことで初めて養母と向かい合えたという。庭にいる養母の姿を台所の網戸越しになぞったあと、外へ出て直接養母に触れるシーンは、自己と他者、そしてカメラという三者の関係について考察しつづける河瀬の作家的原点を示す一場面である。

1994(組画)◎河瀬直美

きゃからばあ(50分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

『につつまれて』のラストで邂逅した父親。その記憶のフッテージから、自身の生い立ちをめぐる養母への問いかけ、父への愛憎を口にする母親との激烈なやりとりへとつながる。やがて河瀬は、刺青をほどこした父親の写真に導かれるように彫師のもとへ。「表現者に愛は必要か」と問う河瀬の身体に刃物を入れることで、彫師は彼女の甘さを指弾する。迷いをありのままに映し出すことで、表現者としての自己を肯定しようともかく河瀬の心象の記録。デジタル原版から新たにDCPを作製した。

2001(遷都=組画)◎河瀬直美◎猪木雅三

3 12/25(水)3:00pm★ 1/16(木)7:00pm

現しよ(65分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

上映会を企画した横浜美術館の提案により、『萌の朱雀』の脚本執筆に際してアドバイスをおこなった是枝裕和との間で交わされた往復書簡。両者とも自身と社会をつなぐさまざまな事物のイメージに当時の迷いや心象風景を重ね合わせているが、言葉との距離、自己の相対化の視線など、おのずと作家的な立ち位置の違いが明らかになっていくさまが興味深い。是枝はのちに「河瀬さんが、『私はこういうふうの世界を愛している』と伝えようとしていたのに対して、『僕はそういうかたちでは世界を愛していない』って送り返している」と述懐している。8mm原版からDCPを作製した。

1996◎河瀬直美、是枝裕和

4 12/24(水)7:00pm★ 1/5(日)1:00pm

萌の朱雀(95分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

WOWOWの出資を受けて製作された長篇第1作。林業が衰退し過疎化が進む奈良県西吉野村(現在の五條市)を舞台に、父親の「不在」を受け容れ、それぞれの道を歩み始める家族の姿を描く。地元出身の尾野真千子ほか素人の役者を中心とする静謐なドラマに輝いた。1997年の第50回カンヌ国際映画祭カメラドールに輝いた。美しい陰影をたたえた撮影は名手・田村正毅。また、要所に挿入される村人たちの8mm映像は河瀬自身の撮影によるもので、日本の原風景の記録という以後の活動の出発点となった。

1997(WOWOW=バンダイビジュアル)◎河瀬直美◎田村正毅◎吉田悦子◎茂野雅道◎國村隼、尾野真千子、和泉幸子、柴田浩太郎、神村泰代、向平和文、山口沙弥加

5 12/26(木)3:00pm 1/17(金)6:30pm

天、見たけ(10分・16mm・カラー)

『かたつもり』からの連作というべき短篇。モノクロームやストップモーションを駆使した実験映画的な色合いの濃い作品となっている。

1995(組画)◎河瀬直美

陽は傾ぶき(45分・16mm・カラー)

『かたつもり』『天、見たけ』につづく「おばあちゃん」3部作の一篇。カメラの視線に親密さが増している。

1996(組画)◎河瀬直美

杉人物語(73分・16mm・カラー)

『萌の朱雀』のロケ地である奈良県西吉野村を河瀬自ら撮影したドキュメンタリー。「生まれ変わって、私が18歳の時に会いに来てよ」と笑う女性、子どもを事故で亡くし愛犬をわが子のように可愛がる男性、かつて恋していた女性の思い出を語る男性…年老いた村人たちの人生の輪郭が、豊かな表情や語り口をとおして浮かび上がる。顔の皺やシミが識別できるほどの接写、民家の軒先にできた水柱等の自然描写、撮影対象にカメラを渡して自分の姿を撮影させる視線の転換など、河瀬のとらえるものはこでも一貫している。

1997(組画)◎河瀬直美

6 1/5(日)4:00pm 1/10(金)2:30pm★

万華鏡(81分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

友人の写真家・有元伸也に、田舎と都会の差異を探るべく、西吉野村生まれの尾野真千子と東京生まれの三船美佳の写真撮ることを提案。河瀬自身もその様子をドキュメンタリーとして撮影することになる。河瀬との「競作」のつもりで提案を受けた有元だったが、撮影を進めるうちに彼の表現者としての葛藤があらわになっていく。映す側と映される側の問答のうちに、「被写体」や「フレーム」にまつわる根源的探究へと到るスリリングな一作。デジタル原版から新たにDCPを作製した。

1999(サンセントシネマワークス=遷都=組画)◎河瀬直美◎有元伸也、尾野真千子、三船美佳

7 1/10(金)5:30pm★ 1/15(水)3:00pm

ほたる
火垂 (164分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

妊娠と墮胎を経験し、恋人と別れたストリッパーのあやこ(中村)は、唯一の肉親である祖父を亡くし天涯孤児となった陶芸家・大司(永澤)と出会い、強く惹かれ合う。さまざまな試練を経て、二人は自らの生きる意味を見出していく。『萌の朱雀』以降、恋愛映画を撮ることを企図していた河瀬が、故郷奈良の風景のなかに男女の濃密な愛のかたちを描き出した。

2000(電通=IMAGICA=サンセントシネマワークス=東京テアトル)◎◎◎河瀬直美◎猪俣雅三◎部谷京子◎松岡奈緒美◎中村優子、永澤俊夫、山口美也子、光石研、北見敏之、杉山延治、柳東史、武村瑞穂

8 12/27(金)3:00pm 1/12(日)4:00pm★

追憶のダンス (65分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

食道がんで余命2ヵ月と宣告された写真評論家の西井一夫から直々に依頼を受けた河瀬が、荻窪の東京衛生病棟のホスピスに通い、ベッドに横たわる西井とひたすら問答を繰り返す。なぜ自分に撮影を頼んだのか、疑問を抱きながらも西井と向かい合ううち、河瀬は写真と映画、記憶と記録の違いをめぐるきわどい考察に入り込んでいく。つねに対象との距離を探り、乗り越えようとする河瀬を新たな思索の段階へと導いた重要な作。デジタル原版から新たにDCPを作製した。

2002(ビジュアルアーツ専門学校大阪=遷都=組画)◎◎河瀬直美◎西井一夫、西井千鶴子

9 1/7(水)3:00pm 1/11(土)4:00pm★

しゃらそうじゆ
沙羅双樹 (99分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

ある日突然、「神隠し」のように姿を消した少年。時が経ち、少年の弟や両親は彼の存在を記憶の奥にしまひ込むことで均衡を保っていた。しかし警察から少年が見つかったと知らせが入り…。『萌の朱雀』同様、かけがえない存在の「不在」とともに生き始める覚悟をする家族の姿が描かれる。古部奈良の風情をいかになくとらえた長回し撮影、パササ祭りの中に降り出す天気雨の美しさが印象的。

2003(日活=よみうりテレビ=ビジュアルアーツ=リアルプロダクツ)◎◎◎河瀬直美◎山崎裕◎UA◎福永幸平、兵頭祐香、生瀬勝久、魚谷剛生、山本将司、芝田和美、杉本千穂、樋口可南子

10 1/8(水)3:00pm 1/18(土)12:00pm★

たらちめ
垂乳女 (39分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

90歳にさしかかった養母の肉体、過去の記憶をめぐって巻き起こる衝突、出産の瞬間…生まれる者と死にゆく者をとらえたドキュメンタリー。カメラを介した他者との関係性について考察しつづけてきた河瀬は、ここに来て自己の胎内にカメラを向け、臓器の内側から世界との関係を問い直そうと試みている。

2006(遷都=組画)◎◎河瀬直美

塵 (45分・DCP・カラー)

養母の死を描いたドキュメンタリー。生前の養母の姿と死後の不在の風景を並列的に映し出すことで、彼女がたしかにそこに「いた」と、いまなお生者のなかに「いる」ことが再確認される。自身のまなざしを通して切り取られた人物や風景を記録ではなく記憶としてとらえること—そんな河瀬の思いが結実した、文字通り集大成的な作品である。『垂乳女』と共に、デジタル原版から新たにDCPを作製した。

2012(組画)◎◎河瀬直美

11 1/7(水)7:00pm 1/19(日)4:00pm★

もがり
殯の森 (97分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

カンヌ国際映画祭グランプリ受賞作品。子どもを事故で亡くした介護士の女性(尾野)と、妻を失い認知症を患う男性(うた)が、森のなかに迷い込み、互いの抱える傷と向き合うこととなる。仏教的死生観をベースに、生のなかに死をもつこと、自己の意志によって生きることと他者によって生かされることの矛盾をめぐる思索へと観る者をいざなう。

2007(専門学校大阪)◎◎河瀬直美◎中野英世◎磯見俊裕◎茂野雅道◎うたしげき、尾野真千子、斉藤隆一郎、ますだかなこ、山本優成、渡辺真起子

12 1/8(水)7:00pm 1/16(木)3:00pm

ななよまち
七夜待 (90分・35mm・カラー)

長谷川京子を主演に、タイを舞台にしたロマンティック・コメディを撮る想定で始まった企画だが、蓋を開ければ、タイの街角や森の中に無防備に投げ出された長谷川が、タイ人の素人役者たちやフランス人俳優と言葉もわからぬままやりとりしていくさまをセミドキュメンタリータッチでとらえた作品となった。実際、出演者たちはワンシーンごとの展開だけを知らされて撮影に臨み、セリフや細かな動きはすべて彼らの自主性にまかされている。

2008(リアルプロダクツ=ポニーキャニオン=ファントムフィルム=ビジュアルアーツ=百々俊二)◎◎河瀬直美◎狗飼恭子◎キャロリーヌ・シャンプティエ◎テラトン・サヤンハリカント◎長谷川京子、グレゴワール・コラン、キッティボット・マンカン、ネーサイ・轟、ヨーヘイ・轟、村上淳

13 1/9(木)3:00pm 1/19(日)1:00pm★

玄牝-げんびん- (92分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

自然分娩を実践する愛知県岡崎市の吉村医院を取材したドキュメンタリー。「現代のお産は文化の異常である」と主張する吉村正院長のもとに集う女性たちは、現代医学にもとづく出産に疑問や不安を抱き、医院での共同生活をつうじて身体と心との関係を見つめ直す。「死を肯定することが生の肯定につながる」と語る吉村院長、生まれくる命と死にゆく命を前に自問する女性たち、助産婦たちの迷い、院長の娘が吐露する父への複雑な思い…それらの錯綜のうちに、観客もまた生命をめぐる終わらぬ思索に巻き込まれていく。

2010(組画)◎◎河瀬直美◎ロケット・マツ

14 1/9(木)7:00pm 1/17(金)3:00pm

はなづ
朱花の月 (91分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

奈良県の橿原市、明日香村、高取町のロケ協力を得て製作。3人の男女の三角関係を描いた神経症的なドラマだが、藤原京の遺跡発掘や戦争の記憶といった要素が随所に織り込まれている。また、自己と他者との距離感に対する河瀬の視線が、ここでは不安定な空間演出に昇華され、ほとんどホラー映画のようなぞっとする瞬間を生み出している。

2011(橿原・高市広域行政事務組合=組画)◎◎◎河瀬直美◎井上憲次◎ハンケン◎こみずとらた、大島葉子、明川哲也、鷹赤兒、小水たけが、樹木希林、西川のりお、山口美也子、田中西乃介

15 1/14(水)7:00pm 1/18(土)3:30pm★

2つ目の窓 (120分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

奄美大島の広大な自然を背景に、少年少女の交流と死をめぐる神秘的探究を重ね合わせた渾身の一作。奄美に伝わる八月踊りの夜、高校生の界人(村上虹郎)は海で溺死体を発見する。一方、界人の同級生である杏子(吉永)の母イサ(松田)は「ユタ神様」と呼ばれる霊媒師だが、病に侵され余命宣告を受けていた。生き神でありながら人間の宿命たる死に抗えない母に矛盾を感じ、反発する杏子。思春期の生と性、そして死の予兆は、やがて彼らを取り巻く世界の様相をも一変させていく。

2014(WOWOW=アスミック・エース=組画=ポニーキャニオン=COMME DES CINEMAS=ARTE FRANCE CINEMA=LLUIS MINARRO)◎◎河瀬直美◎山崎裕◎井上憲次◎ハンケン◎村上虹郎、吉永淳、杉本哲夫、松田美由紀、渡辺真起子、村上淳、榊英雄、常田富士男

【多言語上映のお知らせ】

1/14(火)は、英語字幕に加えて中国語字幕も表示します。
1/14(周二)英文字幕と中文字幕同時表示。
1/18(土)は、英語字幕に加えて韓国語字幕も表示します。
1/18(토)에는 한국어와 영어 자막으로 상영합니다.



令和元年度 美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業

16 12/25(水)6:30pm★ 1/14(水)3:00pm

あん (113分・DCP・カラー)

ドリアン助川の同名小説を映画化。縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎(永瀬)のもとに、アルバイト志願の老女・徳江(樹木)が訪ねてくる。あん作りの名人である徳江のおかげで店は繁盛するが、やがて徳江への心ない噂が広まり…。よるべなさを抱えた者同士の交流の先に、「生きる意味」を問いかける物語は、ここまでの河瀬の表現者としての思索の道程があればこそ。これが最後の主演作となった樹木希林の名演も見もの。

2015(映画「あん」製作委員会=COMME DES CINEMAS=TWENTY TWENTY VISION=ZDF-ARTE)◎◎河瀬直美◎ドリアン助川◎鶴山茂樹◎部谷京子◎デイビット・ハジャジ◎樹木希林、永瀬正敏、内田伽羅、水野美紀、竹内海羽、高橋咲樹、村田優吏愛、浅田美代子、市原悦子

17 12/26(木)7:00pm 1/12(日)12:00pm★

光 (101分・DCP・カラー・聴覚障害者用日本語字幕付)

視覚障害者のための音声ガイドを制作する女性(水崎)と、徐々に視力を失っていく写真家(永瀬)の交流のドラマ。音声ガイドの制作過程や失明への恐れが繊細かつ丁寧に描き込まれている。が、河瀬にとっては決して特殊な題材ではなく、「映画を観る」ということは「目で見る」とことだけを意味するの、という問いをとおして、他者になにかを伝えることの困難さや個人の想像力の限界といった、これまでの河瀬作品の延長上にあるテーマが鮮やかに示された。

2017(木下グループ=COMME DES CINEMAS=組画)◎◎河瀬直美◎百々新◎塩川節子◎イブラヒム・マロフ◎永瀬正敏、水崎綾女、神野三鈴、小市慢太郎、早織、大塚千弘、堀内正美、白川和子、藤竜也◎樹木希林

「光」バリアフリー上映のお知らせ

本作は聴覚障害者用日本語字幕付の上映となります。また、あらかじめ自身のスマートフォン等に「UDCast」アプリを入れ、本作の音声ガイドをダウンロードいただければ、視覚障害者用音声ガイド付でお楽しみいただけます。マイクのない有線タイプのイヤホンをお使い下さい。

※下記のアドレスにて動作確認をお願いします。

https://udcast.net/demo/

これらに加え、1月12日(日)12:00pmの回は、映画の音声を増幅するヒアリンググループシステム座席をご用意しています。また、音声ガイドをご利用いただける機器の貸出も行います。

ヒアリンググループ(30席)と機器(20台)はメールまたはFAXによる事前予約制です。

※ヒアリンググループご希望の方は磁気コイル付補聴器(“T”マーク付補聴器)をご持参下さい。

※スマートフォン等をお持ちの方も事前にご連絡いただけますようお願いいたします。

メールおよびFAX予約方法

件名:ヒアリンググループ/音声ガイド

(どちらかご記入ください)

記入事項:

- ①来場者全員のお名前(付添者は人数だけでも可)
 - ②希望席数/音声ガイド機器希望台数
 - ③返信用連絡先(当日も連絡がとれる電話またはメールアドレス)
- ※個人情報上記の目的にのみ使用し、使用後は適切に破棄します。

締切:1月9日※*定員に達し次第、締め切ります。
申込先:assist@nfaj.go.jp Fax: 03-3561-0830
詳細:www.nfaj.go.jp/exhibition/kawase201911
協力:Palabra株式会社

18 12/27(金)7:00pm 1/11(土)12:30pm★

Vision (110分・DCP・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

紀行エッセイストのジャンヌ(ビノシュ)は、幻の薬草“Vision”を探して奈良吉野を訪れ、山守の智(永瀬)と出会う。ジャンヌの来訪を予見していた不思議な力をもつ老女アキ(夏木)は、森に異変が起きていること、そして“Vision”の存在をジャンヌに示唆する。「光」出品時にカンヌで知り合ったビノシュが河瀬作品への出演を切望したことから生まれた一作。故郷奈良での映画づくりに執着してきた河瀬の、自然と人間のかかわりに対するひとつの回答というべき作品である。

2018(LDH JAPAN=SHOT MACHINE=組画)◎◎河瀬直美◎百々新◎塩川節子◎小曾根真◎ジュリエット・ビノシュ、永瀬正敏、岩田剛典、美波、森山未來、コウ、白川和子、ジジ・ぶら、田中泯、夏木マリ

映画監督 河瀬直美

Naomi Kawase Retrospective

月	火	水	木	金	土	日	
12月	23 11:00am開館 3:00pm につつまれて 他 (計130分) ★	24 11:00am開館 3:00pm 現しよ ★	25 11:00am開館 3:00pm (65分) 杣人物語 他 (計128分) ★	26 11:00am開館 3:00pm 追憶のダンス (65分)	27 11:00am開館 3:00pm 追憶のダンス (65分)	28 11:00am開館 12:30pm 河瀬直美初期短篇集 (計96分)	29 11:00am開館 1:00pm 萌の朱雀 (95分)
	30 11:00am開館 7:00pm (95分) ★ 萌の朱雀	31 11:00am開館 6:30pm (113分) ★ あん	1 11:00am開館 7:00pm (101分) ★ 光	2 11:00am開館 7:00pm (110分) ★ Vision	3 11:00am開館 3:00pm につつまれて 他 (計130分)	4 11:00am開館 3:30pm ★ 万華鏡	5 11:00am開館 4:00pm (81分)
1月	6 11:00am開館 3:00pm (99分) ★ 沙羅双樹	7 11:00am開館 3:00pm (計84分) ★ 垂乳女 他	8 11:00am開館 3:00pm (92分) ★ 玄牝-げんびん-	9 11:00am開館 2:30pm (81分) ★ 万華鏡	10 11:00am開館 12:30pm (110分) ★ Vision	11 11:00am開館 12:30pm (101分) ★ *バリアフリー上映	12 11:00am開館 12:00pm (101分) ★ 光
	13 11:00am開館 7:00pm (97分) ★ 殞の森	14 11:00am開館 7:00pm (90分) ★ 七夜待	15 11:00am開館 7:00pm (91分) ★ 朱花の月	16 11:00am開館 7:00pm (91分) ★ 火垂	17 11:00am開館 5:30pm (164分) ★ 沙羅双樹	18 11:00am開館 4:00pm (99分) ★ 追憶のダンス (65分)	19 11:00am開館 4:00pm (65分) ★ 追憶のダンス (65分)
	16 11:00am開館 3:00pm (113分) ★ あん	17 11:00am開館 3:00pm (164分) ★ 火垂	18 11:00am開館 3:00pm (90分) ★ 七夜待	19 11:00am開館 3:00pm (91分) ★ 朱花の月	20 11:00am開館 3:00pm (91分) ★ 垂乳女 他	21 11:00am開館 12:00pm (計84分) ★ 玄牝-げんびん-	22 11:00am開館 1:00pm (92分) ★ 玄牝-げんびん-
	15 11:00am開館 7:00pm (120分) ★ 2つ目の窓 *英語・中国語字幕付	16 11:00am開館 7:00pm (計96分) ★ 河瀬直美初期短篇集	17 11:00am開館 7:00pm (65分) ★ 現しよ	18 11:00am開館 7:00pm (65分) ★ 杣人物語 他 (計128分)	19 11:00am開館 6:30pm (計128分) ★ 2つ目の窓 *英語・韓国語字幕付	20 11:00am開館 3:30pm (120分) ★ 殞の森	21 11:00am開館 4:00pm (97分) ★ 殞の森

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。 ★印付きの上映回では、トークイベントを予定しています。

河瀬直美監督トークイベントのお知らせ

2019年
12月24日(火)
『につつまれて』他 上映後(5:15pm ~)
12月24日(火)
『萌の朱雀』上映後(8:40pm ~)
12月25日(水)、1月10日(金)、11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)も、河瀬直美監督やその他のゲストによるトークイベントを予定しています。決まり次第、当館HPやSNS等でお知らせいたします。

- * 入場無料
- * トーク直前の上映をご覧になった方は、そのままトークに参加することができます。トークのみの参加もできます。

NFAJ Digital Gallery

NFAJ デジタル展示室 Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<http://www.nfaj.go.jp/online-service/digital-gallery>

前売券の購入方法

[Pコード:550-693]
チケットぴあ店舗、セブン-イレブンで購入
▶12月10日(火)10:00より各プログラムの前日まで
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円がかかります。

受付電話(0570-02-9999)で購入
▶12月10日(火)10:00より各プログラムの4日前23:59まで購入可能
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円がかかります。
* 毎週火・水2:30 ~ 5:30はシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイト
(<https://w.pia.jp/t/nfaj-naomikawase/>)で購入
▶購入時期によってご利用可能な決済方法が異なります。
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。
* 本前売券購入に、システム利用料はかかりません。
* 手数料等の詳細については、上記チケットぴあのウェブサイトをご覧ください。

前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

展示室(7階)

企画展

日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター

Polish Posters for Films / Polskie plakaty filmowe
100th Anniversary of Poland-Japan Diplomatic Relations
2019年12月13日(金) - 2020年3月8日(日)
* 月曜日、2019年12月28日(土) ~ 2020年1月3日(金)は休館です。

主催: 国立映画アーカイブ、京都国立近代美術館
後援: 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
協力: アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート
* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

展示室トークイベントのお知らせ

12月13日(金) 開会記念講演
ダグナ・キドン氏(ウッチ映画大学)
2020年3月7日(土) 展示品解説
岡田秀則(当館主任研究員)
* 時間・場所は決まり次第、HP・SNS等でお知らせいたします。

2階受付では、「NFAJニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAP)の正会員です。
FIAPは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

常設展

企画展に併設
NFAJコレクションでみる
日本映画の歴史
Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFAJ Non-film Collection
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

開室時間 午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで)
* 毎月末金曜日は午前11時~午後8時(入室は午後7時30分まで)
料金(常設展・関連企画共通) 一般250円(200円) / 大学生130円(60円) / シニア・高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料
*()内は20名以上の団体料金です。
* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。
* 国立映画アーカイブの上映観覧券(鑑賞後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金金が適用されます。

常設展ギャラリートーク

原則として毎月第一土曜日12時より
2020年1月4日



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
▼交通:
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
ホームページ: www.nfaj.go.jp

Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR
Instagram: nationalfilmarchiveofjapan